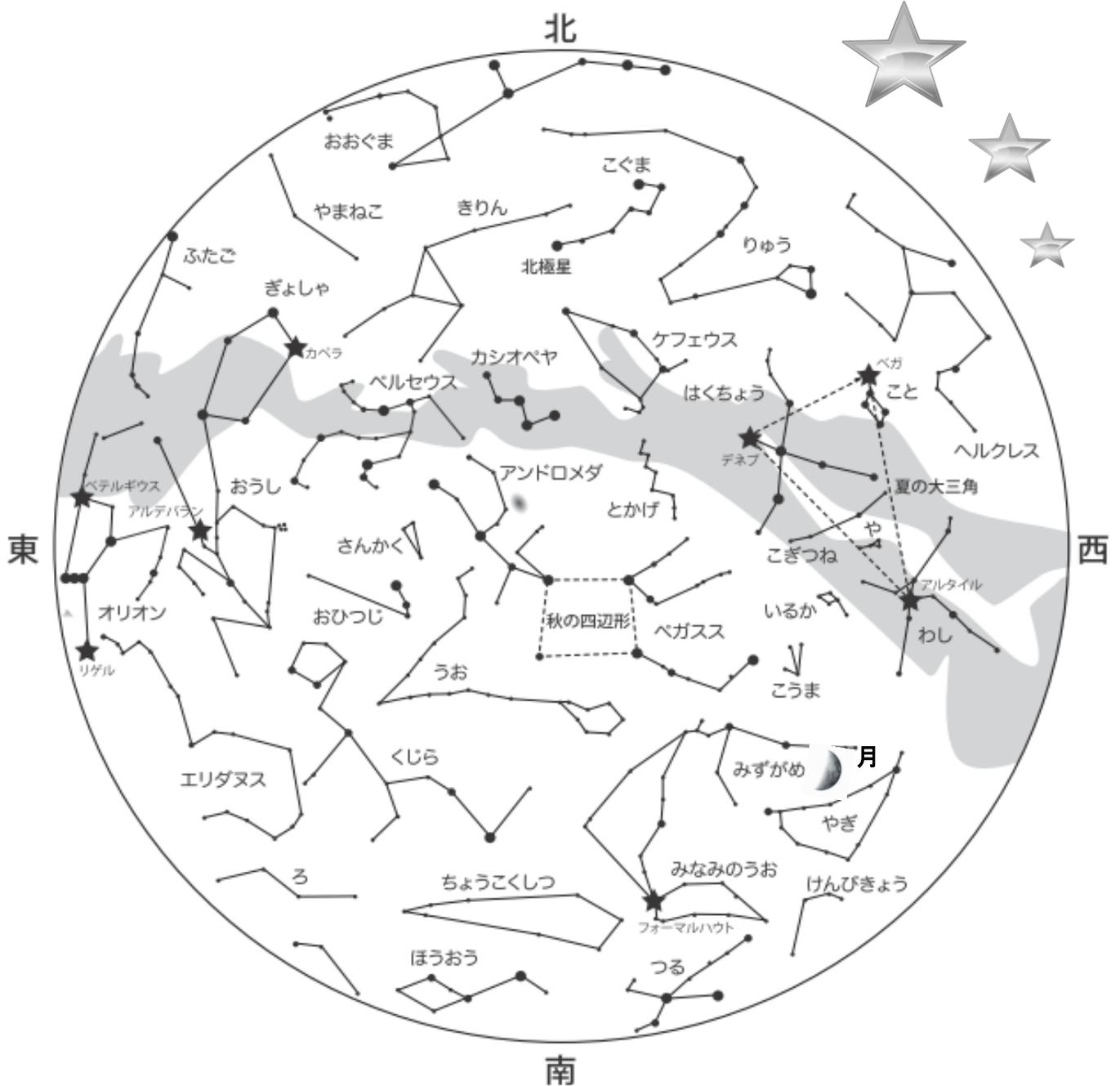


松江市立天文台～11月の天文教室～

平成27年11月18日

11月下旬午後8時頃の星空



紅葉も山から平地に広がって、秋もいよいよ深まってきました。

すっかり早くなった夜の訪れですが、暗くなって頭の真上を見上げると、秋の四辺形を見つける事ができます。秋の星座は明るい星が少ないのでちょっと寂しい気がしますが、ペガサス座、アンドロメダ座、カシオペヤ座、そして南の低いところで光る1等星フォーマルハウトは比較的見つけやすいので、探してみましょう。東では、冬の華やかな星座が姿を現してきました。

11月下旬午後8時頃の星空です。

月の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月

今夜の月は月齢7、明日は半月(上弦の月)になります。

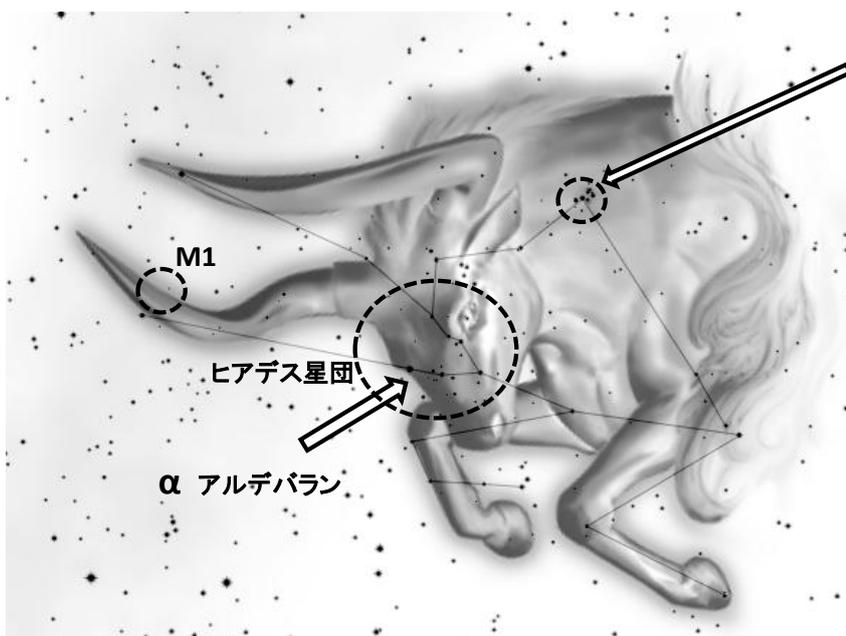
月は地球からの平均距離が約38万4千キロ余りで、小型の天体望遠鏡や双眼鏡でもその表面模様を観察できる天体です。

月は私たちの文化に多大な影響を与えている最も身近な天体です。

また、最近の研究で、月の重力がもたらす潮の満ち引きが、生命の誕生に影響を与えたとも言われています。



おうし座



散開星団 M45

プレアデス星団という名前がありますが、それより「すばる」という和名で有名な散開星団です。

昔から多くの人々が、この星団の美しさを表現しています。宮沢賢治は「燐光を放つラジウムの雁の群」と形容しています。

目のいい人なら、肉眼でも6~7個の星を数える事ができ、双眼鏡や小型の天体望遠鏡でその姿を楽しむことができます。

私たちから410光年の距離にあります。

おうし座について

おうし座は、オリオン座とならんで冬を代表する星座です。

牛の頭部には、星がV字型を形づくるヒアデス星団があり、そのなかでひとときわ赤く明るいのが、1等星アルデbaranです。

牛の肩には、別名すばるの名で有名な、プレアデス星団が輝いています。

神話では、大神ゼウスが変身した大きな白い牛で、フェニキアの王女エウロパを背に乗せてたまたま走って、そのままエウロパをさらって妻にされたと言われています。

そのとき、ゼウスの牛が到着した土地が、エウロパの名にちなんで、ヨーロッパと呼ばれるようになったといえます。

惑星状星雲 M1

牛の右の角の付近に、M1、形がかにの甲羅に似ているため別名かに星雲と呼ばれる小さな星雲があります。

実はこの星雲、1054年に巨大な星が大爆発してできたもので、中国や日本に記録が残っています。

澄んだ空なら小型の天体望遠鏡でも見られます。



天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。

使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。

また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 12月16日(水) 20時から21時まで

(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)

事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会